



あの頃は、銀行員、融資マンであることに誇りを感じていた。

「一番苦しかったとき、当時の支店長が本部にかけあって融資を決めてくれた」

「ここまで成長できたのは、御行が当社を理解し、信じてくれたおかげ」

そんなことを言ってくれる取引先が、昔の支店には何社もあった。

あの頃は決算に多少の課題があっても、事業を徹底的に理解し、

貸し方を工夫しながら案件を練り上げた。

「貸したお金は本当に返ってくるのか？」

「自分の分析はこれで十分なのか？」

そんな自問自答を繰り返す中で、お客様のことを理解できた。

本部の決裁がおりたことを取引先に伝えるときの、あの高揚感と達成感が懐かしい。

(続く)